

アザムガルの民俗歌謡—婚姻儀礼と女性の歌

宮城学院女子大学 国際文化学科 八木 祐子

はじめに

本報告では、北インド農村でのフィールド・ワークにもとづき、調査地域の婚姻儀礼と、そのさいに女性がうたう民俗歌謡について、1989年に採集した事例を紹介し、その歌詞に着目して検証する。また、1991年の経済自由化以降、変化が著しい2002年以降の事例も紹介したい。

まず、調査地域の概要について述べておきたい。筆者が1983年からフィールド・ワークをおこなってきた地域は、北インド、ウッタル・プラデーシュ (Uttar Pradesh) 州東部のアザムガル (Azamgarh) 県にある。ヒンドゥー教の聖地、ワラーナシー (Varanasi) から、北に100キロほどいったところにあり、ボージプリー (*Bhojpurī*) というヒンディー語の東部方言を話す地域に属している。ボージプリー語圏は、本論でとりあげる婚姻儀礼だけでなく、季節の歌や労働の歌、出産儀礼にうたう歌など、様々な民俗歌謡がうたわれる地域として知られている [八木 1990a]。主要な産業は農業で、コメ、コムギ、マメ類をつくり、サトウキビからつくった黒砂糖を市場で売って、現金収入を得ている。

主に調査をおこなってきたS村の村民は、すべてヒンドゥー教徒であり、牛飼いや牛乳販売などを伝統的な職業とするヤードブ (*Yādav*) と、皮革処理をおこなうがチャマル (*Chamār*) が多くを占めている。現在では、いずれも農業労働に従事しているものがほとんどである。ヤードブは、この地域で支配的な地位を占めているタークル (*Thākur*) という地主層に続き、近年、社会・経済的に主要な地位を占めている。本論では、ヤードブの婚姻儀礼のさいに、女性たちがうたう民俗歌謡を紹介する。

ここで、調査地域に関わる民俗歌謡に関する先行研究として、代表的なものをとりあげる。Archer は、1940年代のビハール (Bihār) の民俗歌謡をとりあげているが、英訳だけにとどまり、採取されたオリジナルでの表記はみられない [Archer 1985]。Freed & Freed は、1958-59年の Delhi 郊外にある *Shantinagar* について民族誌を詳述しているが、民俗歌謡についての記述は少ない [Freed & Freed 1980]。Singh は、1972-73年のボージプリー語圏の民俗歌謡をとりあげているが、残念ながら、採集地が不明である [Singh 1979]。また、Henry は、1920-80年代のワラーナシー近郊にある地域の婚姻儀礼を紹介しており、事例としてとりあげられた民俗歌謡には、筆者の調査地域の事例と共通するものがみられる [Henry 1988]。

文化人類学的な研究で代表的なものが Wadley の研究であり、ウッタル・プラデーシュ州西部にある *Kharimpur* の社会変化をとりあげるなかで、女性の儀礼や民俗歌謡を紹介しており、筆者の研究テーマに近い [Wadley 1985]。Raheja & Gold は、1980-90年に採集したウッタル・プラデーシュ州

西部やラジャスターン州の女性がうたう歌をとおして、家族関係の分析をおこなっている [Raheja & Gold 1994]。近年では、Pinchmanが、ワーラーナシーのクリシュナ神に関わる儀礼を中心にとりあげ、カルティーク (*Kartik*) 月の民俗歌謡を分析し、そこにみられる女性たちの関係性について考察している [Pinchman 2005]。また、八木は、ボージプリー地域の女性がうたう民俗歌謡のなかで、儀礼や祭りにともなう歌や嘲りの歌であるガーリー (*gāhī*)¹ をとりあげ、家族関係の分析 [八木 1990b, 1992] や、民俗歌謡のジェンダー分析、婚姻儀礼の過程そのものや社会変化についても分析をおこなっている [1990a, 1999, 2008, 2010]。

なお、本論は、2015年1月におこなわれたマハーラシュトラ研究会での報告を、研究ノートとしてまとめたものである。紙数の関係から、婚姻儀礼の詳しい過程や儀礼の分析そのものについては、別稿 [八木 1991] を参照していただき、ここでは、代表的な女性の儀礼を紹介するにとどめたい。また、本論で紹介する民俗歌謡は、ボージプリー語をアルファベットで表記する形で事例を掲載する。

I. 調査地域の婚姻儀礼

1. 1980年代の調査地域

1980年代の調査地域では、まだランプを使って生活しており、ようやく焼成煉瓦家屋 (*Pakkā Mahān*) へ電気が届きはじめた頃であり、井戸と共同の手押しポンプが使われていた。

ヒンドゥー社会では、花嫁の父親は、娘が初潮を迎える前に結婚をさせるのが理想とされているが、1980年代頃は、花嫁が15~16歳頃に婚姻がおこなわれていた。婚姻儀礼は3段階あり、いずれも花嫁の家でおこなわれる。まず、シャーディー (*Śādī*) という実質的に結婚が成立する儀礼がおこなわれ、1週間つづく。5月の一番暑い時期で、農閑期にあたる時期におこなわれることが多い。この儀礼で、女性は初めてサリーを着る。ついで、その1~2年後に、ゴウナー (*Gaunā*) がおこなわれ、花嫁が花婿の家に3日間だけ滞在し、実家に戻る。いわば顔見せ的なもので、だいたい2~3月におこなわれることが多い。この儀礼がおわると、女性はサリーを日常的に着るようになる。さらに、半年から1年後、ドーゲー (*Dogē*) がおこなわれ、花嫁と花婿が結婚生活を始める。2~3月、10月~11月におこなわれることが多い。

ここでは、もっとも主要な儀礼であるシャーディーをとりあげる。これらの様々な儀礼ごとに、婚姻儀礼の民俗歌謡 (*Vivāh Kā Git*) が、主に既婚女性たちによってうたわれる。

2. シャーディー儀礼のプロセス

1日目~6日目は、花嫁、花婿双方の家で儀礼がおこなわれ、この期間のほとんどで、既婚女性が儀礼の担い手となる。7日目~8日目は、花嫁の家で儀礼がおこなわれ、花婿、花婿側の男性親族、村の男性、子どもたちの花婿行列 (*barataī*) が花嫁の家に向かう。花婿側の女性は、花嫁の家に行かない。8日目に花婿一行が自分の村に戻る。花嫁側は、7日目、8日目の儀礼の費用を負担し、数百人分の食事、娯楽 (映画、ヒジュラによる踊り) を用意する。

1) 1日目、4日目の儀礼

1日目には、ウルド・チャーワル・チャーナーという儀礼がおこなわれる。これは、ウルド豆と

米を、箕（ふるい）で、振り分けるもので、婚姻儀礼において、良いものだけが残るようにいう意味でおこなわれる。そのさいに、〈事例1〉がうたわれるが、歌詞の *rānī* はお姫様つまり花嫁、*rājā* は王様つまり花婿を意味し、このように、花嫁や花婿を讃える歌を花嫁あるいは花婿の女性親族、近所の女性たちがうたう。また、4日目には、ウルド・カー・ドイヤー・ドーナーという儀礼がおこなわれる。これは、ウルド豆を、洗って、黒い皮の部分を取り、中身の白い部分を取りだし、お菓子にするものだが、黒いもの（悪いもの）がなくなって、白いもの（良いもの）だけが残るという意味がある。このように、花嫁・花婿を祝福し、悪霊を払う儀礼が中心となる。

〈事例1〉 ウルド・カー・ドイヤー・ドーナー

妻よ、あなたの美しい姿は、機械でつくられたのですか。

それとも、あなたは、鍛冶屋さんがつくったのですか。

夫よ、私は機械でつくられたものでもないし、

鍛冶屋さんがつくったものでもありません。

私を私の両親が生みました、美しくつくりました、神様が。

Kiyaa tuhi raaniya ho, sachavaa kai dharali

Kiyaa tuhi garalai sonar,

Nahin ham hai raajaava ,sachavaa kai sanchal

Nahin ham garalai sonar,

Janam tau dihalai mora mai se bapavaa ho

Surat gadainai bhagvaan

2) 6日目の儀礼

6日目には、祖先を招待したり、神に結婚の成功を祈るマツ・マンガラ (*matmangala*) という一連の儀礼がおこなわれる。まず、カルヤーン・プージャーという儀礼がおこなわれ、司祭が結婚の成功を祈願する。ついで、ハリス・ガーダナーという儀礼をおこない、花嫁あるいは花婿と親族を含め、5人で、結婚の柱（鋤、ハリス）を儀礼場にたてる。そのさいに、儀礼の手順を述べた〈事例2〉の歌が既婚女性によってうたわれる。その後、既婚女性が、〈事例3〉の歌をうたいながら、カラーシュ・ゴータナーという儀礼をおこない、土の壺に、吉兆なものであるコメ、オオムギ、牛フンをつける。

クートナーという儀礼では、既婚女性5人が杵でコメをついて、祖先の食事をつくる。そのさいに、〈事例4〉の歌がうたわれる。その後、チューリー・ネオタという儀礼をおこない、既婚女性5人が4つ（東西南北の方角）の土の壺に米を入れる。これらは、いずれも婚姻儀礼に祖先を招待するもので、不慮の事故や寿命をまっとうせず亡くなった人が悪さをしないように、あらかじめ招待するものである。〈事例4〉のように、親族や近所の女性たちが、ダルシングルルームなど、婚姻儀礼がおこなわれる家族の名前をその場で入れてうたう。

〈事例2〉 ハリス・ガーダナー

チャイト月がおわってから、おじいさんよ、はじまりました、ヴァイサーク月が。

4本の棒を立ててください、おじいさんよ、4つの方角に。

1つの棒を立ててください、おじいさんよ、ベジヤ（マンダップ）の真ん中に。

4つのカルシャー（土の壺）をおいてください、おじいさんよ、4つの方角に。

1つのカルシャーをおいてください、おじいさんよ、ベジヤの真ん中に。

4つのランプを灯してください、おじいさんよ、4つの方角に。

1つのランプを灯してください、おじいさんよ、ベジヤの真ん中に。

Utarat Chaitawaa e Baabaa laagat Baisaakh

Charii chambaa gaadaa e chaarii kon

Ek khambaa gaadaa e Baabaa bediyaa ke biiche

Charii kalsaa dharaa e chaarii kon

Ek kalsaa dharaa e Baabaa bediyaa ke biiche

Charii diyanaa baaraa e chaarii kon

Ek diyanaa baaraa e Baabaa bediyaa ke biiche

〈事例3〉 カラーシュ・ゴータナー

義理の姉妹よ、あなたはマンダップの真ん中にすわって、

わたしのカルシャー（土の壺）をつくってください。

兄弟の嫁さんよ、カルシャーをつくったら何をくれますか。

あなたのカルシャーをつくります。

あげます、義理の姉妹よ、あなたの首のためにハスリーという首輪を。

あげます、義理の姉妹よ、義理の姉妹の息子に手にパチェラという腕輪を。

あげます、義理の姉妹よ、義理の姉妹の夫に、馬を。

（あげたら）喜んで家に行くでしょう。

Nanado baithaa madhya madauaa tau kalasaa hamaraa gothaa

Nanado baithaa chandan pirauyaa tau kalasaa hamaraa gothaa

Bhaujii kalasaa gotaunii kaav debuu, kalasaa tuharaa gothava

Debo mai Nanado debo tuhare gale hasulii

Debo mai Nanado debo Bhaiyanavaa haathe koraa

Debo mai Nanado debo Nanadoiyaa ke ghoravaa, bihaase gharaa jaayaa

〈事例4〉 クートナー

4つの小さい（壺の）米をついてください、神様よ。

誰のムサル（杵）とオカリ（臼）ですか。

4つの小さい（壺の）米をついてください、神様よ。

ダルシソガールラームのムサルです。

4つの小さい（壺の）米をついてください、神様よ。

やけどして亡くなった人、水におぼれて亡くなった人、

木から落ちて亡くなった人、蛇に咬まれて亡くなった人、

蠍に刺されて亡くなった人、みんな、今日は、結婚式に招待します。

Chaari chhota chauru kutavare manoratha, musar kahava kaiokhari

Chaari chhota chauru kutavare manoratha, Darsingarraam kai musar

Chaari chhota chauru kutavare manoratha,

Aagi kai jaral panni kai bural pera kai giral kirava kai katal

Bichhiya kai maral are savarar aaj nevata

イムリー・ゴータナーという儀礼では、母方の兄弟が、花婿、花嫁にイムリー (*imlī*, タマリンド)の葉を噛ませる。そのさいにうたわれるのが、〈事例5〉である。夜になって、親族だけでおこなわれるのがシル・ポナーという儀礼で、花婿、花嫁の両親が、石棒で、風の神、水の神に供えるチャパティ (*chapati*, 小麦粉でつくったパン)をつくり、ささげる。そのさいに、サムハール・バーバーなどと故人に呼びかけるように、名前を入れて〈事例6〉がうたわれる。

〈事例5〉 イムリー・ゴータナー

家からでてきて玄関に立ちました、私の兄弟が。

身体を飾って、シーターは結婚しに行きます。姉妹がマチヤにすわっています。

兄弟はマンダップに行きました。

ゆるめて、兄弟よ、プライドの入った布を。イムリー・ゴトナーのために。

兄弟がマチヤにすわっています。母の兄がマンダップに行きます。

ゆるめて、兄弟よ、プライドの入った布を。イムリー・ゴトナーのために。

Ghara me se nikarai duaare kharraa bhainai bhaiyaa more

Tankai singaar Siitaa byaahan jaabai

Machiyaa hii baithaunii behinii

Madauvaa chari bhaiyaa

Choraa bhaiyaa mdam kai gathariyaa Imlīi ghotaanaa

Machiyaa hii baithaunii bhaiyaa madauvaa chari maamaa

Choraa Bhaiyaa mdam kai gathariyaa Imlīi ghotaanaa

〈事例6〉 シル・ポナー

天国にいるサムハール・バーバーとボーラーラームよ。かれらを招待します。

天国にいるバグワンディ、天国にいるスカイ・バーバーよ。

あなたの祝福をおくってください。私のシル・ポナーの儀礼がうまくいくように。

天国にいるアプタール・バーバーとシヴァビークラームとアフティラームよ。
かれらを招待します。

天国にいるシンガールバーバー、ラームダワルバーバーよ。

あなたの祝福をおくってください。私のシル・ポナーの儀礼がうまくいくように。

天国にいるサムハール・バーバーとバウルハラームよ。かれらを招待します。

木から落ちた人、水におぼれて死んだ人、火事で亡くなった人、

蠍で刺された人、もう誰か忘れた人、かれらを招待します。

Saragee je baathai Samhaar Baabaa auro Baulaaraam, Onahuu kai netavatta

Saragee je baathai Bagvantii Dei saragee je baathai Sukhai Baabaa

Pathaidaa aapnii sughari mori Silia pohahi jaai

Saragee je baathai Abtaar Baabaa auro Shivabhikhraam auro Aphutiiraam

Onahuu kai netavatta

Saragee je baathai Singaar Baabaa saragee je baathai Raamdavar Baabaa

Pathaidaa aapnii sughari mori Silia pohahi jaai

Saragee je baathai Samhaar Baabaa auro Baulharaam ,Onahuu kai netavatta

Pedavaa kai giral paniyaa kai buudal aaghiyaa jaral

Bichiyaa kai maaral isaral bisaral Onahuu kai netavatta

3) 7日目の儀礼

7日目の午後、花婿一行が花嫁の家に向かう。その前に、花婿は出発前の儀礼、花嫁の家では準備の儀礼がおこなわれる。パリチャンの儀礼では、花嫁あるいは花婿の頭のうえで、母親が5種類の品物（箕、杵、香辛料をつぶす石棒、ヨーグルトを攪拌する棒、サリーの端）を、左回りに5回まわす。これは、5種類の品物がずっと手に入り、結婚生活で苦労しないように祈るものである。そのさいに、〈事例7〉の民俗歌謡がうたわれる。花婿一行が花嫁の家に着くと、花婿に対して、王冠をかぶせるタージ・パヒラナー儀礼がおこなわれ、そのさいに、〈事例8〉がうたわれる。

〈事例7〉 パリチャン

スープ（箕）をもってきてください、嫁さんよ。

スープをもってきてください。

このスープが将来にもあるように。

ムサル（杵）をもってきてください、嫁さんよ。ムサルをもってきてください。

このムサルが将来にもあるように。

ローラー（香辛料をつぶす石棒）をもってきてください、嫁さんよ。

ローラーをもってきてください。このローラーが将来にもあるように。

カイラル（ヨーグルトの攪拌棒）をもってきてください。

このカイラルが将来にもあるように。

アーチャル（サリーの端）をもってきてください。

このアーチャルが将来にもあるように。

Suup lebu bahuari suup lebu, supva sapuran hoy

Musar lebu bahuari musar lebu, musar sapuran hoy

Laurha lebu bahuari laurha lebu, laurha sapuran hoy

Kairal lebu bahuari kairal lebu, kairal sapuran hoy

Aachar lebu bahuari aachar lebu, aachar sapuran hoy

〈事例8〉 タージ・パヒラナー

今日は新婚の夜です。お月さまがでるでしょうか、でないでしょうか。

（花婿の）王冠のうえにでます。（花嫁の）王冠のうえにでます。

でます、花婿の額に。

お月さまがでるでしょうか、でないでしょうか。

今日は新婚の夜です。

Aaji shoaage kai raat aho ,Candaa ugiho ki nahii

Mauruu pe ugiho seharaa pe ugiho

Ugiho dulaheraam maathe aho

Candaa ugiho ki nahii,

Aaji shoaage kai raat aho

4. 7日目の夜、ビヤーフ

7～8日目には、ビヤーフ（*biyāh*）と呼ばれる一連の儀礼が、花嫁の家でおこなわれる。花婿行列が花嫁の家に到着すると、花嫁、花婿がそろっての儀礼がおこなわれる。チェンリーでは、花婿側から花嫁側へ籠に入れた贈り物を与える。そのさいに、〈事例9〉のように、花婿側の贈り物に対する不満を述べた花婿側を嘲る歌をうたう。

花嫁はサリーで顔を隠し、うつむいた状態で、ナーイー（*Nāī*、床屋カースト）の女性に付き添われて入場し、花婿に向かいあってすわる。その後にカニヤー・ダーンという重要な儀礼がおこなわれる。これは、花嫁の父親がカニヤー（*kanyā*、未婚の、処女の娘）を、花婿にダーン（*dan*、贈る）するもので、〈事例10〉の歌がうたわれる。パオン・プージャーでは、花嫁の両親と親族が、花婿と花嫁の足（*paon*、パオン）に触れて礼拝する。一番、重要な儀礼がシンドゥール・ダーンであり、花婿がシンドゥール（*sindūr*、赤い粉）を、花嫁の髪分け目に塗ることで、結婚が成立する。厳粛な婚姻儀礼の場で、司祭がマントラ（*mantra*、経文）を唱えるそばで、花嫁側の女性親族、近所の女性が〈事例11〉のような花婿や花婿の男性親族を嘲るガーリー（*gālī*、嘲りの歌）²をうたう。

さらに、ラワ・パリチャンでは、花婿と花嫁が竹杵をもち、そこに花嫁の兄弟が煎ったオオムギをそそぐ儀礼をおこなうが、〈事例12〉のような花婿側を嘲る歌がうたわれる。これらの儀礼がおわると、花嫁・花婿は隣り合ってすわり、結婚の成立が祝福される。

〈事例9〉 チュンリー

義理の兄弟がマンダップにきた。金貨でいっぱいの籠をもってきた。
青銅の飾りものを金でつくったと言った。額のティクリをもってこなかった。
義理の兄弟がマンダップにきた金貨でいっぱいの籠をもってきた。
アルミニウムの飾りものを銀でつくったと言った。
足の指輪をもってこなかった。
義理の兄弟がマンダップにきた。金貨でいっぱいの籠をもってきた。
木綿の生地をベルベットの生地だと言った。
化繊のサリーをもってこなかった。金貨でいっぱいの籠をもってきた。

Samadhii madauvaa me aai, Mohar bharii petii laai

Pital ke gaahanaa ko sonaa banaai, Maathe kii bindii na laai

Samadhii madauvaa me aai, Mohar bharii petii laai

Jastaa ke gaahanaa ko candii banaai

Pairo kii chaagala na laai

Samadhii madauvaa me aai, Mohar bharii petii laai

Khaddar ke kapade ko makhamal banaai

Parado kii saadii na laai, Mohar bharii petii laai

〈事例10〉 カニヤー・ダーン

どんな人が娘をカニヤ・ダーンしますか。すべての人がみえています。
アヒールラームが娘をわたします。すべての人がみえています。
いりません、義理のおじいさんよ、牛乳のでないバッフアローは。
ください、義理のおじいさんよ、牛乳のでる牛を。
(そうしたら) 笑って家へ帰ります。

Denai kavanraam kaniyaa daan, Sakal panca dekhai

Denai Ahirraam daan, Sakal panca dekhai

Jini diiha e Baabaa gaathii

Diihaa Baabaa dhenu, baken hasat ghara jaai

〈事例11〉 シンドウール・ダーン

義理の兄弟よ、何をしにきましたか、マンダップ（儀礼の場）に。
立ちなさい、義理の兄弟よ、私のマンダップから。
あなたの白い口髭が私は恥ずかしい。
立ちなさい、義理の兄弟よ、私のマンダップから。
あなたの水ギセルのような鼻が私は恥ずかしい。
立ちなさい、バラティ（花婿一行）よ、私のマンダップから。

あなたは何をしにきましたか、マンダップに。

バラティたちはラール（男性性器）をなめにきました、マンダップに。

あなたのターサー（太鼓の一種）みたいなお腹が私は恥ずかしい。（後略）

Saalaa kakarai ailaa tuharii marai me,

Uthi jaa se saalaa hamare marai se

Tuharii pakari pakarii mochhi hamare laj lagai le,

Uthi jaa se saalaa hamare marai se

Tuharaa chiilam aisan nekura hamare laj lagai le,

Uthi jaa se barati hamare marai se

Saalaa kakarai ailaa tuharii marai me,

Barati havaa lar charai aila marai me,

Tuhara taasaa aib pet hamare laj lagai le

〈事例12〉 ラワ・パリチャン

私のラワ（煎った麦）とあなたのラワを一つにしてください。

私の兄弟とあなたの姉妹と一緒に寝させてください。

私のラワとあなたのラワを一つにしてください。

私のパンディット（司祭）とあなたのパンディットの奥さんを一緒に寝させてください。

More laavaa tore laavaa ekai me milavare,

More saalaa tore bahin ekai me sutavare

More laavaa tore laavaa ekai me milavare,

More pandit tore pandain ekai me sutavare

5. 8日目、9日目の儀礼

8日目の昼には、キチリー・カーナーがおこなわれ、花婿にキチリー（混ぜご飯）を食べさせるが、すぐに花婿は食わず、花嫁側から花婿側に贈られる持参財（*dahej*）に満足したら食べる。その様子をからかって、花嫁側の女性たちは、〈事例13〉のような歌をうたう。そのあと、いくつかの儀礼をおこなったのち、花嫁一行は、自分たちの村に戻る。9日目には、花嫁、花婿双方の家で神に結婚の報告をするマウリ・セールワナ儀礼がおこなわれ、〈事例14〉がうたわれる。この儀礼は、女性だけによっておこなわれ、セクシュアルな歌と踊りがともなう。

一方、花婿の家では、8日目に、花婿の母親や女性親族、近所の女性たちだけが集まって、花婿をからかったり、〈事例15〉の歌のようなセクシュアルな歌をうたい、男性の恰好をして腰を振るなど、セクシュアルな踊りをおどるナクトゥリヤ（*naktoriya*）がおこなわれる。これには、結婚のあとは出産という豊穰を祈る意味が込められている。

〈事例13〉 キチリー・カーナー

花婿が儀礼場にすわっています。

すわる場所がありませんけど、食事をしてください、花婿よ。

サイクル（自転車）を贈るために、あなたの義理のお父さんが立っています。

彼もたいへん悩んでいます。食事をしてください、花婿よ。（中略）

義理のおじいさんよ、私は手に金の鎖が欲しいです。そうしたら、食事をします。

花婿が儀礼場で怒っています。

義理のおじいさんよ、私は手に指輪が欲しいです。そうしたら、食事をします。

花婿が儀礼場で怒っています。

Raam marai me baithai, baithe ke kuchh na havai jevanava jelo lalan

Saikil lie tuhare sasuru khare hai,

Vohi bare pareshan jevanava jelo lalan

Baabaa ham levai hathe kai sikhariya, tabai kaeb bhojaniya

Raam marai me than than machat hai

Baabaa ham levai hathe kai anguthiya, tabai kaeb bhojaniya

Raam marai me than than machat hai

〈事例14〉 マウル・セールワナ

チナロ（ぶらぶらしている女）がディー・バーバー（村の守り神）を祈りに行きます、大変立派な方法で。

義理のおばさんがディー・バーバーを祈りに行きます、大変立派な方法で。

ディー・バーバーが彼女と1000回セックスします。

チナロがシャヤール・バーバー（村の守り神）を祈りに行きます、大変立派な方法で。

ルクミナ・マイがシャヤール・バーバーを祈りに行きます、大変立派な方法で。

シャヤール・バーバーが彼女と1000回セックスします。

Chinaro diiha chlaini bari juguti, inhai diihbaabaa marainai hajaar

Phua diiha chlaini bari juguti, inhai diihbaabaa marainai hajaar

Rukumina mai diiha chlaini bari juguti, inhai shayaarbaabaa marainai hajar

〈事例15〉 ナクトゥリヤ

金のターリー（皿）に食事をおきました。花婿は食事を食べません。

腰が動かない花婿は子供です。

ロータ（壺）、ギラス（コップ）に水を入れました。花婿は水を飲みません。

腰が動かない花婿は子供です。

掛け布団と枕でベッドをつくりました。花婿はベッドに寝ません。

腰が動かない花婿は子供です。

（後略）

Sone ke thari mai jevana parosi, jevana na jevai,
Kaliyaiya nahi dolai ho balumua larkaa
Lota gilasi kai gerua bhara, gerua na ghotai,
Kaliyaiya nahi dolai ho balumua larkaa
Toshak takiya kai sej lagayo, sejiya na sovai,
Kaliyaiya nahi dolai ho balumua larkaa

II. 儀礼の構造

1. 儀礼と女性

これまでみてきたように、既婚女性が多くの儀礼の担い手となり、歌をうたい、踊りをおどって儀礼に参加する。既婚女性が婚姻儀礼の主要な儀礼の担い手となるのには、「吉なる女性 (*sumangali*, *mangalanāri*)」という観念が関わっている。調査地域において、未婚の女性、妊娠中の女性、月経中の女性など、調査地では生殖能力をもつ女性、家の繁栄につながる女性が「吉なる女性」と考えられている。とくに、結婚して、夫と子供がいる女性がかつとも「吉なる女性」とされ、家族やリネージの繁栄に寄与するといわれる。家の繁栄に関わらない寡婦や不妊の女性は「凶なる女性」とみなされ、女性の儀礼に積極的に参加できない。つまり、既婚女性は、家族や一族の繁栄を願う女性と認識されており、婚姻儀礼に積極的に参加する [八木 2001]。

婚姻儀礼は、司祭の儀礼 (*Śāstra Acār*) と女性の儀礼 (*Śtrī Acār*) に分かれ、司祭の儀礼では、司祭がマントラ (経文) を唱え、テキストに従って儀礼をおこなうのに対し、女性の儀礼では、既婚女性を中心となり、歌や踊りがとれない、口承伝統によっておこなわれるのが特徴である。

2. 女性の歌や踊りの機能や意味

今までみてきたように、まず、婚姻儀礼において、女性がうたう歌は儀礼を構成する要素であり、1つ1つの儀礼ごとに特定の歌がともなう。そこには呪術的な祈りも込められており、「吉なる女性」がうたう「吉なる歌 (*mangal gīt*)」であり、豊饒を祈る歌でもある。2つめに、女性がうたう歌は儀礼の「とき」を知らせる。今、どのような儀礼がおこなわれているか共同体の人々に知らせ、歌がメッセージ性をもっているとも言える。また、3つめに女性のうたう歌には、悪霊の慰撫や祖先の招待という意味もある。既婚女性たちは、それぞれの家族や親族、遠い祖先を歌に詠みこんでいる。儀礼の手順が組み込まれ、儀礼の伝承がおこなわれることも含めて、いわば、女性の歌は「共同体の記憶装置」とも言える。

さらに、歌詞のなかに、杵、臼、一緒に寝などの歌詞が使われ、ガーリーという嘲りの歌は、非常にセクシュアルな内容であり、踊りがともなうこともある。つまり、歌をうたうことで、生殖や豊穡を祈る仕掛けにもなっている。

Ⅲ. 2000年代—経済自由化以降

1. 農村社会の変化と婚姻儀礼

1991年の経済自由化以降、インド社会は変化の刻を迎えている。農村社会においても、その影響がみられる。2000年代に入ると、テレビが2〜3軒に1台となり、手押しポンプだけでなく、電動ポンプもみられるようになった。2010年代に入ると、家屋の新築があいつぎ、モバイル（携帯電話）は1軒に数台はある。

そのような消費社会化する農村において、婚姻儀礼自体も大きく変化している。都市部ではすでにおこなわれていたが、農村ではあまりみられなかったジャイマール (*Jaymāl*) という花嫁と花婿による花輪交換の儀礼が、主要なピヤーフ儀礼に先だっておこなわれるようになってきた³。舞台に花婿がすわって待ち受け、そこに花嫁が親族の女性に付き添われて入場する。このとき、すでに花嫁はサリーで顔を隠さず、人々に顔をみせている。ここが1980年代の婚姻儀礼とは大きく異なる。招待客は、椅子にすわって、舞台上の花嫁・花婿を見守り、花嫁、花婿と一緒に写真を撮る。そのあとに、花婿一行に食事がふるまわれ、それからピヤーフ儀礼がおこなわれるので、儀礼は深夜に及ぶことになる。歌い手である既婚女性たちのうち、親族の女性をのぞいて、近所の女性たちは眠りにつき、儀礼にとまなう歌がうたわれなこともおこっている。

2. 民俗歌謡の変化

婚姻儀礼のさいにうたわれる民俗歌謡の歌詞にも変化がみられる。〈事例16〜20〉は、いずれも、2012年5月の婚姻儀礼のさいに、調査地域で女性たちがうたった歌である。小学校もでていない50代以上の女性たちと、中学校や高校進学があたり前になった10代〜20代の女性たちとではうたう歌詞の内容、テンポの違いなど、様々な面で違いが生じている。

たとえば、〈事例16〉の「ホテルをつくって」とか、〈事例18〉の「ブラウス・セット」のように、消費経済化がすすむ村落社会の様相を、また〈事例17〉のように、「ママ」や「パパ」という言葉や、〈事例19〉のように、「B.A まで勉強させる」など、若者世代が使う言葉や教育レベルの上昇など、現代の世相を反映した歌詞が登場しており、興味深い。

〈事例16〉 チューリー・ネオタ

言っています、スダマの奥さんが。夫よ、きいてください、私の話を
私の道にホテルがないです。ホテルをつくってください、政府が。

夫よ、きいてください、私の話を。

私の道にハンドポンプがないです。ハンドポンプをつくってください、政府が。

夫よ、きいてください、私の話を。

言っています、スダマの奥さんが。夫よ、きいてください、私の話を

Kahatii Sudamaa kii naarii, sajan baatiyaa maamaa hamarii

Kamarii gaalin me hotal nahin hai hotal kholaavaa sarkaarii,

Sajan baatiyaa maamaa hamarii,
Hamarii gaalin me nalkaa nahin hai nalkaa lagaavaa sarkaarii,
Sajan baatiyaa maamaa hamarii
Kahatii sudamaa kii naarii, sajan baatiyaa maamaa hamarii

〈事例17〉 カニヤー・ダーン

ママが泣きました、マンダップ（結婚式場）で。カニヤダーンをします。
どこから来ましたか、尊敬する花婿は。足を洗わせませす。
パパが泣きました、マンダップ（結婚式場）で。カニヤダーンをします。
今日は、私の娘が他の家の人になりました。カニヤダーンをします。
自分の可愛がっている娘をダーンしないでください。

Mammii jii rovai mandapvaa mai ho, detai kanyadaan
Kahavaa se aita dulahe baabuu ho, lehalaa paua dhavaai
Paapaa jii rovai mandapvaa mai ho, detai kanyadaan
Aaji hamarii betii paraai bhainiii ho, detai kanyadaan
Apnii dulaarii betii mati karaa daan

〈事例18〉 キチリー・カーナー

言いなさい、姉妹よ。何を欲しいですか。サガラ（池）を掘ると。サガラを掘ると。
サリーが欲しい、ペチコートが欲しい、ブラウス・セットがついたものを。
外からパパが来ました。言いました、ニコニコして。
言いなさい、姉妹よ。何を欲しいですか。サガラを掘ると。

Bolaa bahinii kaav lebuu sagadaa khanai jii, sagadaa khanai jii
Saarii levai saaya lebai belaauij set lagaaaai jii
Bahare se paapaa aavai bolaai musukaai jii,
Bolaa bahinii kaav lebuu sagadaa khanai jii

〈事例19〉 ガーリー

ナマステ、ナマステ、グッドゥよ。あなたにナマステ、私のナマステをもって行ってください。
シーターとラームのように。
私のナマステを自分の姉妹の前で言いなさい。子供たちを勉強させるように言いなさい。
シーターとラームのように。
子供の勉強をチナロよ、M.A. までさせると、あなたはほめられるでしょう。
シーターとラームのように。
ナマステ、ナマステ、アングールよ。あなたにナマステ、私のナマステをもって行ってください。
シーターとラームのように。

私のナマステを自分の姉妹の前で言いなさい。子供たちを勉強させるように言いなさい。
シーターとラームのように。

子供の勉強をアルチナよ、B.A. までさせると、あなたはほめられるでしょう。

シーターとラームのように。

Namaste namaste Guddu aap se namaste, hamaro namaste lehale jaayaa haan,

Siiataaraam sevani,

Hamaro namaste apne diidii aage kahihaa larkan kai kari hai paraai han,

Siiataaraam sevani

Larkaa paraai chinaro emee karai hai hann jii aapkai hoi hai baraa haan,

Siitaaraam sevani

Namaste namaste Ankur aapse namste hamaro namste lehale jaayaa haan,

Siiataaraam sevani

Hamaro namaste apne diidii aage kahihaa larkan kai kari hai paraai han,

Siiataaraam sevani

Larkaa Archinaa biiee karai hai hann jii aapkai hoi hai baraa haan,

Siitaaraam sevani

また、〈事例20〉のように、「オー、マイ、ディア カム、カム、ヒア」や「24時間（トゥエンティ フォル）」のように、歌詞に英語の単語を混ぜることも増えてきた。教育をほとんど受けていない世代は意味がわからず、一緒にうたうことができない。また、若い世代がうたう歌は、流行するメロディをとり入れることもあり、その場合はテンポがはやくなる。

〈事例20〉 ガーリー

英語で、サーレ（義理の兄弟）のシヴァクマールよ、きいて下さい、ガーリーを英語でグッドゥの姉妹よ、オー、マイ、ディア カム、カム、ヒア、オー、ランガを着るのに24時間かかります。英語で。

英語で、サーレ（義理の兄弟）のグッドゥよ、きいて下さい、ガーリーを英語で。

シヴァクマールのピンキー（女の子の名）よ、オーマイディア カム、カム、ヒア、オー、ランガを着るのに24時間かかります。英語で。

英語で、サーレ（義理の兄弟）よ、きいて下さい、ガーリーを英語で（後略）

English me Shivakumar saale suno gaalii english me jaychand saale suno english me,

Guddu kii diidii auo mai diiyar kam -kam hiiyar auo pahene langaa pahelii patalii dore

Taaim lagegii tventiiphor english me,

English me Guddu saale suno gaalii english me jaychand saale suno english me,

Shivakumar kii Pinkii auo mai diiyar kam -kam hiiyar auo pahene langaa pahelii patalii dore

Taaim lagegii tventiiphor english me,

おわりに

すでに述べたように、女性がうたう民俗歌謡は、口頭伝承により、伝えられるものであった。だが、教育レベルが上昇したことや、歌い手が世代によって分断されているため、歌詞が伝承されず、市販されているテキストをみながらうたう場合もみられるようになった。

婚姻儀礼の歌には、儀礼の手順を読み込んだ歌や祖先や親族の名前を歌詞に取り入れるものがある。50代以上の女性たちは、村落内部の人間関係がわかり、すべてのリネージや人々の名前をおぼえているが、そのような世代が減り、また、リネージごとに村落が分断される傾向にあり、その地域の独自の歌が伝承されなくなりつつある。また、テキスト化がすすむことで、地域性も薄れつつある。

このように、農村社会の変化や婚姻儀礼そのものの変化とともに、「共同記憶装置」ともいうべき、女性の歌の伝承性や独自性が失われつつある。これからどのように変化がすすむのかを注意深く見守っていきたい。

〈注〉

- ¹ ガーリーについては、ヒンディー文学からの研究もみられ、坂田は、トゥルシーダースの詩文やラーマチャリットマーナス (*Ramcharitmānas*) などのヒンディー文献にみられる嘲りの歌、ガーリーに注目して、紹介している [坂田 2015]。
- ² 婚姻儀礼におけるガーリーがもつ意味については、別稿 [八木 1992、2008] を参照していただきたい。
- ³ 婚姻儀礼自体の変化については、詳しくは、[八木 2010] を参照していただきたい。

〈参考文献〉

- ARCHER, C.
1985 *The Songs of the Bride*. New Delhi: Vikas Publishing.
- Henry O. Edward
1988 *Chant The Names Of God: Musical Culture In Bhojipuri-speaking India*. San Diego: San Diego State University Press.
- Freed R.S. & Freed S.A.
1980 *Rites of Passage in Shanti Nagar: Anthropological Papers of the American Museum of Natural History*. Volume 55. Part 3.
- Pinchman Tracy
2005 *Guests at God' Wedding: Celebrating of Kartik Among the Women of Benares*, New York: State of New York University Press.
- Raheja, Gloria Goodwin & Gold, Ann Grodzins.
1994 *Listen to the Heron's Words: Reimagining Gender and Kinship in North India*. Berkeley: University of California Press.
- 坂田貞二
2015 “Gāli/The abusive and ridiculing Song sung at Hindu Marriage Ceremony” 『日本南アジア学会第28回全国大会報告要旨』 175頁。

Singh, C.

1979 *Marriage Songs from Bhojpuri Region*, Jaipur: Champalal Ranka and Company.

Wadley, S. Susan

1994 *Struggling with Destiny in Kharimpur*, 1925–1984, University of California Press.

八木祐子

1990a 「婚姻儀礼と女性の歌—北インドの村から—」八木祐子編『女性と音楽』（民族音楽叢書 第2巻）東京書籍 57-76頁。

1990b 「シーターの夢—婚姻儀礼の歌にみられる家族関係—」八木祐子編『女性と音楽』（民族音楽叢書 第2巻）東京書籍 175-199頁。

1991 「儀礼・職能カースト・女性—北インド農村における通過儀礼と吉・凶の観念—」『民族学研究』56巻2号 181-208頁。

1992 「女性・歌・パフォーマンス—北インド農村の婚姻儀礼をめぐる一試論—」『南アジア研究』第4号 59-78頁。

1999 「結婚・家族・女性—北インド農村社会の変容—」窪田幸子・八木祐子編『社会変容と女性：ジェンダーの文化人類学』ナカニシヤ出版 36-65頁。

2008 “Women, Abuse Songs and Erotic Dances: Marriage Ceremonies in Northern India”, In *Music and Society in South Asia: Perspectives From Japan*, Osaka: National Museum Ethnology.

2010 「チャイからコーラへ—北インド農村における婚姻儀礼の変化—」鈴木正崇編『南アジアの社会を読み解く』慶応大学出版会 85-107頁。